

2025年度 須磨学園夙川高等学校入学試験

学力検査問題

国 語

(注 意)

解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、
受験番号シールを貼り、受験番号を記入しなさい。

1. すべての問題を解答すること。
 2. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
 3. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰ること。
- ※ 設問の都合上、本文を一部変更している場合があります。

学校法人 須磨学園 夙川高等学校



□ 次の【会話文】は、生徒X・Y・Zが、二〇二五年で阪神・淡路大震災から三〇年の節目となることをふまえて、神戸市の「人と防災未来センター」を見学する前の話し合いの様子です。これを読んで、後の設問に答えなさい。

【会話文】

生徒X・1 —— 【資料Ⅰ】を見る限り、かなり広い施設だね。

館内では二〇項目ほどの展示があつて、色々と体験できてうだよ。

生徒Y・1 —— 当日は、限られた時間での見学しかできないから、【資料Ⅰ】を確認して、事前に見学の計画を立てておくべきだと私は思います。

生徒Z・1 —— では、当日は無駄なく見学できるよう、みんなで話し合いをしておこうよ。【資料Ⅰ】を見て、どの展示を特に見学したいと思いましたが？

生徒Y・2 —— 私は、阪神・淡路大震災が起きた時はまだ生まれていなくて、実際のところはよく知らないから、館内を一通り見学したいです。

生徒X・2 —— 僕は、せっかくの機会だから、ネットではなかなか分からないことを体験してみたい。この施設なら、そういう体験をできる展示が絶対にありそう。

生徒Z・2 —— 一通り見学するなら、西館の一階から二階へと、順に見学していきましょう。西館の見学後に、東館にも行きたいですね。

生徒Y・3 —— 例えば、西館の二階なら「防災・減災体験フロア」と、すべてのフロアに、そのフロアを要約するような名前がついていますね。

生徒X・3 —— 東館の三階は「BOSAI サイエンスフィールド」だって。テクノロジーを駆使することで、震災を身近に感じられるような工夫がなされているんだなあ。すごい。

生徒Z・3 —— しかも、【資料Ⅰ】の見学ルートを改めて見返してみると、大雑把に見れば、過去から未来へとつながるような展示内容になっていますね。

生徒Z —— 【資料Ⅰ】の展示内容の説明を、より細かいところまで見ていると、おそろく海外から見学される方もいるように
A
と分かります。

生徒Y —— 自然災害は、どこの国でも起こりうることだろうけれど、海外の方にも、私たちの町に興味関心を持ってもらえるのは嬉しいな。

生徒X —— ところで、僕の知り合いが、先日「人と防災未来センター」を訪れたようで、館内で配布されていた【資料Ⅱ】【資料Ⅲ】をもらったよ。そうそう、実際に、海外からの見学者もとても多かったみたい。

生徒Z —— この前、国語の授業で習った共通点・相違点という観点から、二つの資料の同じところと、違うところについて考えてみましょう。

生徒X —— 【資料Ⅲ】には、【資料Ⅰ】にはない記述として、
B
こうした取り組みが必要になっていると考えられる背景が述べられているよ。

生徒Y —— さらに、【資料Ⅰ】【資料Ⅲ】の相違点としては、運営する人たちが違うのはもちろんのことだけど、
C
取り組みの際に用いられているモノが違うね。

生徒Z —— あと、取り組みで重視されている行為も違うかな。【資料Ⅲ】では「歩く」ことを重視しているのに対して、【資料Ⅱ】では「
D
」ことを重視していると言えるかな。

生徒X —— 細かいことかもしれないけれど、【資料Ⅱ】の「継承」と、【資料Ⅲ】の「分有」とは、どういう違いがあるのだろう。取り組みの上で、とても大切にしている姿勢なのではないかと思った。

生徒Y —— 「継承」に関しては、国語辞書には「先の人の身分・権利・義務・財産などを受け継ぐこと」という説明があるね。

生徒Z —— 「分有」に関しては、「一つのを何人かで分けて所有すること」という記述があるよ。

生徒X —— なるほど。二人の意見をまとめると、「継承」と「分有」の大きな違いは、
E
という点になると言えるかな。

生徒Z —— 次に共通点としては、阪神・淡路大震災という同じテーマを扱っているというのは当たり前だけれど、それ以外には何かあるかな？

生徒X —— 【資料Ⅱ】にも「あの日の神戸」とあつて、【資料Ⅲ】にも「過去の災害の記録や表現」とあるから、時間軸が、過去と現在とを対比している点や、共通点だと思います。

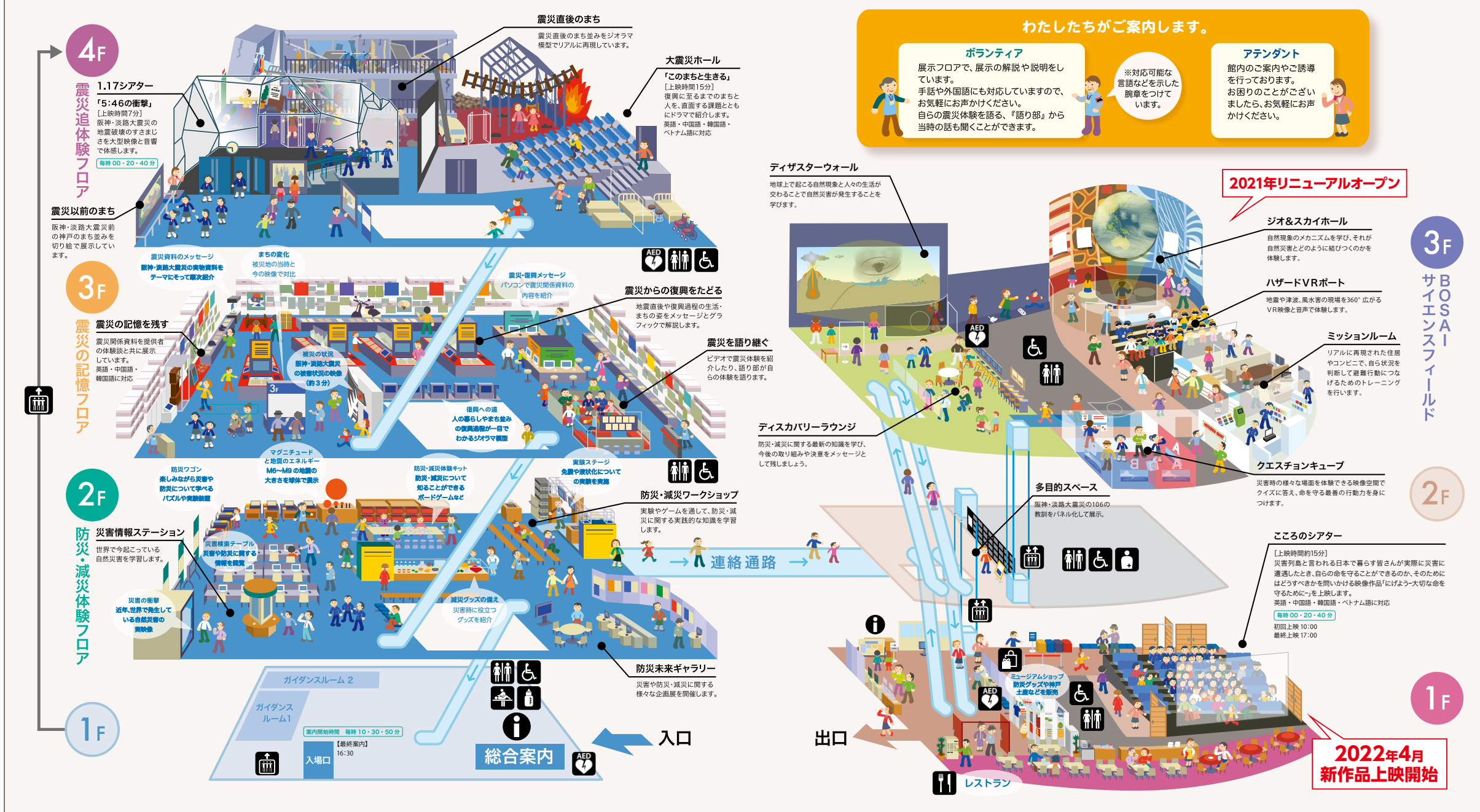
生徒Y —— 過去と現在の対比という点では、【資料Ⅰ】にもあつた多くの取り組みも同じだと言えるよね。私たちの町で起こったことをちゃんと学んで、自分たちのこととして、やがて来ると言われている災害に備えていきたいな。

西館 展示ゾーン

West Building Exhibition Zone

東館 展示ゾーン

East Building Exhibition Zone



出典：人と防災未来センターHP「フロアマップ」

資料は、裏面に続きます。

阪神・淡路大震災30年 あの日の神戸 — 記憶の継承 —

神戸大学は、教育・研究とならぶ使命として、地域・社会との連携協力にも力を注いでいます。附属図書館においても、所蔵する貴重な資料を多くの皆様にご覧いただきたいと考え、平成16年度から毎年資料展示活動を実施しています。
神戸大学附属図書館は、阪神・淡路大震災の被災地の中にある図書館の責務として、関連資料を収集した「震災文庫」を公開しています。本年度は震災から30年の節目を迎えるにあたり、「あの日の神戸—記憶の継承—」をテーマに、当時の被災状況や街の様子と30年後の復興を遂げた現在の様子を、所蔵資料を中心とした写真や地図などでご紹介します。記憶の風化を防ぎ、次の大災害への備えを考える機会となれば幸いです。多数のご来場をお待ちしております。

展示概要

写真と地図で振り返る震災

30年前に震災で大きな被害を受けた神戸も復興を遂げ、歳月を経たことでその爪痕もほとんど感じられなくなっています。いま私たちが見ている街並みは震災の時ほどの様子だったのでしょか？「長田区」「中央区」「灘区・東灘区」の3つのエリアを中心に震災当時と現在の写真から「あの日の神戸」と「私たちの今」を見比べます。



左：国道2号、桜口交差点から六甲山方面を望む（撮影：大木本美通氏）
上：同地点、同アングルで撮影した現在の姿

震災のなかの神大と学生

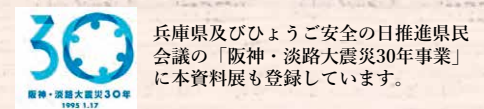
経験したことの無い大災害のなか、神戸大学ではどのような被害を被ったのか、また、学生や教職員はどのような対応に迫られたのでしょうか。被災時の神大の状況、学生の様子、ボランティア活動など、写真や記録などから紹介いたします。



神大生協食堂内に避難する人々（撮影：久下正史氏）

震災文庫紹介

「震災文庫」は、発災9カ月後の平成7年10月30日に公開を始まりました。阪神・淡路大震災に関する資料を収集しており、図書や広報誌をはじめ、写真、チラシ、動画、音声など多岐にわたっています。資料点数は5万7千点以上になります。一部の資料は電子化していますので、震災文庫ウェブサイトからご自由にご覧いただけます。どうぞご利用ください。（<https://da.lib.kobe-u.ac.jp/da/eqb/>）



兵庫県及びひょうご安全の日推進県民会議の「阪神・淡路大震災30年事業」に本資料展も登録しています。

出典：「神戸大学附属図書館資料展 阪神・淡路大震災30年 あの日の神戸—記憶の継承—」チラシ

災間 スタディーズ

震災30年目の “分有”をさぐる

1995年以降、地震、風水害、コロナ禍など、いくつもの災害が発生してきました。私たちは、すべての被災地の復旧や復興を見届け、共有することが困難な「災間」を生きています。過去の災害の記録や表現にもう一度光を当ててみることに。そこから、経験を想像し、分かちもつ「分有」の態度を探ること。災間スタディーズでは、災厄をめぐって、アートやアーカイブの視点からリサーチを行うゲストを迎え、渦中に生きる人びとが生み出す記録や表現の力について考えます。



おもいしワークショップ開催の様子

主催団体について

災間文化研究会
さまざまな災厄の間（あいだ／なか）を生きているという「災間（さいかん）」の視点に立ち、社会を生き抜く術としての文化的な営みに目を凝らし、耳を傾ける試みを行うグループ。メンバーは佐藤孝青（アーツカウンシル東京 プログラムオフィサー）、高森順子（情報科学芸術大学院大学 研究員、阪神大震災を記録しつづける会）、宮本匠（大阪大学大学院人間科学 研究科 准教授）、小川智紀（認定NPO法人STSスポット 横浜 理事長）、田中真実（認定NPO法人STSスポット 横浜 事務局長）。それぞれ異なるテーマをもって活動し、災間の社会における“間”で動くメディアとしてのふるまいを模索している。2023年5月、記憶を「分有」する表現にまつわるメルマガジン「分有通信」発行。bun-tsu編集部には編集者の辻並麻由が参加。
▶ <https://researchmap.jp/community-inf/Saikan-Studies>

阪神大震災を記録しつづける会

阪神・淡路大震災の体験手記を集め、出版する市民団体。阪神・淡路大震災の約1ヶ月後の1995年2月中旬より、神戸で印刷業を営んでいた高森一徳を発起人として活動をはじめ、1995年5月に最初の手記集「阪神大震災 被災した私たちの記録」を出版。手記集の出版は、約1年に1度のペースでおよそ10年にわたって続いた。10巻までの投稿総数は1,134編。10巻の脱稿後の2004年12月に一徳が急逝し、約5年間の活動休止を経て、2010年に一徳の姪である高森順子が事務局長となり活動を再開した。震災から20年目の2015年には10年ぶりの手記集を出版。25年目の2020年には、これまでの執筆者へのインタビューを収録した記録集を出版し、現在まで活動を続けている。
▶ <https://hanshinkiroku.tumblr.com/>

お問い合わせ：デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO）
〒651-0082 神戸市中央区小野浜町1-4
TEL: 078-325-2235 FAX: 078-325-2230
E-MAIL: info@kiito.jp WEB: <https://kiito.jp/>

#3] ワークショップ「まちの記憶をなぞり、歩く」

「歩く」という素朴な行為のなかにある「動き続けること、感覚が開くこと」に興味を持ち、さまざまな人々と歩行の実践をしてきた古川友紀さん。古川さんは、2018年、阪神・淡路大震災に関する演劇への参加をきっかけに、神戸のまちの記憶を歩いてなぞる「おもいしワークショップ」を始めました。
第3回は古川さんをナビゲーターに「おもいしワークショップ2024 ver.」を実施します。身体を動かし、地形をたどる。土地の記憶につながるテキストを読み、それを声に出し、過去の出来事に思いを馳せる。ゆっくりと時間をかけて、まちを歩くことから、自分とは異なる誰かの記憶にアプローチしてみましょう。

ゲストプロフィール

古川友紀 | ダンサー、散歩家

1987年、京都府生まれ。歩くという素朴な行為のなかにある運動の持続と世界の受けとめ方に関心をもち、歩行にかかわるさまざまな催しやプロジェクトをしている。主な企画に「即興散歩 アルコテンポの会」、「おもいしワークショップ」、「歩録」シリーズ。ダンスや演劇の作品出演も多数。



関連プログラム

■ 分有資料室 2025年3月30日(日)まで / 2Fライブラリにて
災害にかかわる記録や表現を見る、読む、書くことができるスペース。「災間」と「分有」をキーワードに集めた記録・表現の書棚「分有と表現のライブラリ」、関連プログラム「30年目の手記」を書くためのスペース、1995年から現在までの災害や社会にかかわる出来事を追うための「1995-2025 timeline」、1995年から震災手記集を出版してきた「阪神大震災を記録しつづける会」に関する資料展示で構成されています。



■ 阪神・淡路大震災から「30年目の手記」

阪神・淡路大震災にまつわる手記を募集します。お寄せいただくエピソードは、震災当時に限ったものではありません。震災から30年のあいだにあったことや感じたことなど、誰かと分かちあいたいエピソードをお書きください。

募集期間：2024年1月17日(水)～12月17日(火)

募集期間中にいただいた手記は、期間中に一部公開、終了後に原則全文公開を予定しています。また、「阪神大震災を記録しつづける会」手記執筆者ととも集まった手記を読む「30年目の手記公開ミーティング」を分有資料室にて行う予定です。

主催：デザイン・クリエイティブセンター神戸、阪神大震災を記録しつづける会、災間文化研究会 / 協力：一般社団法人NOOK、神戸市立図書館 / 後援：神戸新聞社、NHK神戸放送局、NHKエンタープライズ近畿



出典：「災間スタディーズ 震災30年目の“分有”をさぐる」チラシ

一の設問

問一 【資料Ⅰ】をふまえた場合、「生徒X・1」も「生徒Z・3」の発言のうち、**適当でないものを二つ選び、次の【例】の形式で、答えなさい。**

【例】 X・1

問二 「おそらく海外から見学される方もいるようだと分かります」(——線部A)と判断できる根拠を、【資料Ⅰ】から一五字以上二〇字以内で書き抜きなさい。なお、句読点や記号も一字と数えます。

問三 ここでの「こうした取り組みが必要になっていると考えられる背景」(——線部B)とは、どういふものですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 ネットに依存し、実際に身体を動かすことがない習慣。
- 2 長い月日が経過すれば、無関係な記憶は忘却する生活。
- 3 経験を想像し、分有する態度を探ることが困難な災害。
- 4 災害に関わる出来事を、分かち合うことが難しい時代。

問四 【資料Ⅱ】と【資料Ⅲ】の「取り組みの際に用いられているモノ」(——線部C)の組み合わせとして最も適当なもの、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 【資料Ⅱ】写真 【資料Ⅲ】歩行
- 2 【資料Ⅱ】地図 【資料Ⅲ】いし
- 3 【資料Ⅱ】写真 【資料Ⅲ】まち
- 4 【資料Ⅱ】記録 【資料Ⅲ】アート

問五

D にあてはまる言葉を、二字で答えなさい。

問六

E にあてはまる内容として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 違う世代の間で行われるのか、同じ世代の間で行われるのか
- 2 結果として得られる利潤が、一人なのか、複数の人間なのか
- 3 対象となるものが、目に見えるものか、目に見えないものか
- 4 行為に関係する人間たちが、移動するののか、移動しないのか

問七 次に示すのは、二〇一三年に内閣府より公布された「災害対策基本法等の一部を改正する法律の概要」です。【資料Ⅰ】【資料Ⅱ】【資料Ⅲ】に見られる取り組みの背景にある考え方で最も関連する項目の内容を、後の中から一つ選び、番号で答えなさい。

概要

1 大規模広域な災害に対する即応力の強化

- 災害発生時における積極的な情報の収集・伝達・共有を強化
- 地方公共団体間の応援業務等について、都道府県・国による調整規定を拡充・新設
- 地方公共団体間の応援の対象となる業務を、消防、救命・救難等の緊急性の高い応急措置から、避難所運営支援等の応急対策一般に拡大
- 地方公共団体間の相互応援等を円滑化するための平素の備えの強化

2 大規模広域な災害時における被災者対応の改善

- 都道府県・国が要請等を待たず自らの判断で物資等を供給できることなど、救援物資等を被災地に確実に供給する仕組みを創設
- 市町村・都道府県の区域を越える被災住民の受入れ（広域避難）に関する調整規定を創設

3 教訓伝承、防災教育の強化や多様な主体の参画による地域の防災力の向上

- 住民の責務として災害教訓の伝承を明記
- 各防災機関において防災教育を行うことを努力義務化する旨を規定
- 地域防災計画に多様な意見を反映できるよう、地方防災会議の委員として、自主防災組織を構成する者又は学識経験のある者を追加

- 1 災害発生時における積極的な情報の収集
- 2 地方公共団体間の応援業務
- 3 避難所運営支援等の応急対策
- 4 救援物資等を被災地に供給する仕組み
- 5 住民の責務として災害教訓の伝承

【文章Ⅰ】は、幼児教育や初等教育と関わりの深いモンテッソーリ教育の解説書の一部であり、【文章Ⅱ】は、シュタイナー教育の解説書の一部です。これらを読んで、後の設問に答えなさい。

【文章Ⅰ】

子どもにはなんでも満足するまでやらせることが大切です。満足するまでやりきった子どもは、心が安定します。

① 公園などで遊んでいると、「まだ帰りたくない！」と
言うことがありますね。遊びは能力を伸ばすことにつながるの
で、できるだけ付き合っただけあげたいところですが、ママにも家事
や仕事などの都合があります。ついイライラして、子どもの手を
無理やり引っ張って帰るママもいるでしょう。でもそれではお互
いにいい気持ちではありませんよね。

子どもが「やりきった」と満足する前に終わらせてしまうと、
子どもの心にどこか不満が残ってしまいます。

②、子どもが満足するまでとことん付き合っただけられ
たらいいのですが、時間にヨウウがない場合は、帰宅する時間を
決めるなど、あらかじめ「枠組み」をつくるのが有効です。

子どもが満足するまで、思うゾンブンをやらせることは大切です
が、すべてに付き合いきれないのもわかります。家事に仕事に忙
しいママの場合、あらかじめ「ルール」を決めておくといいで
しょう。

具体的には、「時計の長い針が12の位置にきたら終わりにしよ
うね」などと話しておきます。これなら時計が読めない子どもわ
かります。

あらかじめ約束しておけば、子どもは時間がきたら納得してく
れますし、ママもストレスをためずに済みます。

③ 子どもは本当に満足できたとき、終わりを自分で決めることが
できるものです。

子どもの要望に応えることは、時間的にも心理的にもしんどい
こともあります。子どもが満足するまでやらせることで、その
あとの子育てはぐっとラクになります。

(伊藤美佳『子どもの才能の伸ばし方』による)

【文章Ⅱ】

「世界中を旅行したとしても、そのすべての世界旅行よりも、生
まれてからの数年間に乳母から学んだことの方が、はるかに大き
い」。これは、ドイツの小説家ジャン・パウル (Jean Paul, 1763-
1825) の作品『レヴァーナ、または教育の教え』の中で述べられ
ていることですが、シュタイナーはこの見解に深く同意しています。
子どもにとって、それほどの重みをもつ乳幼児期。第2章で見
たように、この時期の幼児は、教えられることによってではな
く、模倣によって学びます。生まれてからの数年間(第1・7年
期)は、お手本となる大人に導かれ、子どもは自らの土台となる
からだを形成していくのです。

では、具体的に子どもたちと、どのようにかかわっていけばよ
いのでしょうか。本章では第1・7年期の子どもたちに寄り添っ
ていくための、いくつかのポイントを示したいと思います。

① 幼児期は、リズム(くり返し)を大切にするべきです。リズム
は子どもに、安定した環境を与えます。世界を、自分にとって
不確かなものではなく、安心して見通すことのできるもの
とみなせるようになるからです。

くり返しによって、ものごとの流れが習慣化されたとき、頭で
考えずとも体が動くようになり、子どもたちの心にくつろぎがも
たらされます。シュタイナーの幼稚園では、1日、1週間、1カ
月、1年のリズムを、とても大切にしています。

リズムは意志を育てます。この点は、第1章と第2章で見た
シュタイナーの発達論とレンドウしています。第1章で解説した
とおり、シュタイナーの発達論において、第1・7年期の課題
は、子どもの意志を育てることです。ムチツシヨな環境では、子
どもが「やりたい」と思ったことを尊重できません。のびのびと
自主性を発揮できるようにするための「枠」が必要なのです。こ
こでの「枠」とは、子どもたちをしばりつけるものではなく、大
人が子どもに過度に干渉しないためのものです。

③ 「枠」がなければ、「早く寝なさい!」「早く起きて!」
などと、大人が子どもの行動に介入する機会が増えてしまいま
す。子どもが大人の命令によってではなく、自分の意志で行動す
るために、生活リズムを整えることは不可欠といえます。意志
は、リズムを整える中で育まれるのです。

(井藤元『シュタイナー教育』による)

注 第1・7年期……シュタイナー教育において、0～7歳の
乳幼児期を指す。

二の設問

問一 ① ③ に入ることはの組み合わせとして最も

適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① ふだん ② なるほど ③ ただし
- ① たとえば ② もちろん ③ もし
- ① つまり ② しかし ③ また
- ① しかし ② やはり ③ かりに

問二 「お互いによく気持ちではありません」(——線部A)に

ついての説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 子どもは母親に言い分を聞いてもらえないことに満足できず、母親も子どもの相手に不満を抱える。
- 2 子どもは無理やり帰らされることに心が安定せず、母親も不満そうな子どもをなだめるのに疲れる。
- 3 子どもは十分遊ばせてくれない不満を母親にぶつけ、母親も家事や仕事の不満を子どもにぶつける。
- 4 子どもは満足するまで遊ぶことができずに不満を抱え、母親も家事や仕事ができずに不満を抱える。

問三 「あらかじめ「枠組み」をつくるのが有効です」(——

線部B)とありますが、どういう点で「有効」なのですか。

その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 子どもが満足するまで遊びに付き合えない場合であっても、子どもが遊びに満足感を得られるという点。
- 2 たとえ短時間であったとしても、公園での遊びを通して、子どもの能力を伸ばすことができるという点。
- 3 たとえ時間にゆとりがない場合も、子どもは納得して遊びを止め、母親も心労を抱えずに済むという点。
- 4 子どもに不満が残らずに素直に育つことで、その後の子育てにおいて手間がかかりにくくなるという点。

問四 「子どもは本当に満足できたとき、終わりを自分で決めることができるものです」(——線部C)が本文で果たす役割についての説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 子どもの定義に触れ、前の段落の「子どもは時間がきたら納得してくれます」という主張の説得力を高めている。
- 2 子どもは母親の干渉がなくとも、自ら終わりを決める判断力を持つことから、母親を安心させようとしている。
- 3 子どもは判断力を持たず、自ら遊びを切り上げることでもできないと考える過保護な母親を批判しようとしている。
- 4 子どもには主体性があり、後の段落の「そのあとの子育てはぐっとラクになります」の直接の根拠となっている。

問五 「シユタイナーはこの見解に深く同意しています」(——

線部D)とありますが、どういう点に同意しているのですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 幼少期に、子どもの身近にいる大人の教えがあったからこそ、世界中を旅行して得られる学びも、より深まるという点。
- 2 成人後の、長い年月をかけた世界旅行よりも、短い乳幼児期に身近な大人から学んだことの方が、重大であるという点。
- 3 世界旅行よりも、生まれてからの数年間の乳母の思い出の方が印象的で、幼児の記憶はいつまでも残り続けるという点。
- 4 乳幼児期以降、乳母から学んだことは、大人になってから世界中を旅行したことと、同じくらいの重みをもつという点。

問六 本文で述べられる「模倣」(——線部E)についての説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

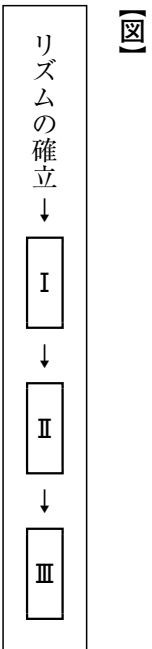
- 1 お手本となる大人の様子を、自分で真似てみることに。
- 2 大人が教えなくても、大人を見習って学習すること。
- 3 自分自身の土台となる体を健全に形成していくこと。
- 4 すでにできている流れを、自らくり返してみることに。

設問は、裏面に続きます。

問七 「具体的に子どもたちと、どのようにかかわっていけばよいのでしょうか」(——線部F)とありますが、本文の内容に即した場合、子どもに対する大人の関わり方についての説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 子どもの基本的なしつけを行い、子どもが安心して世界を見通すことができるよう、くつろげる環境作りを行う。
- 2 決まりを一切設けることなく、子どもの自主性をのびのびと発揮できるように、一日単位で細部に亘^{わた}って教育する。
- 3 子どもの行動に過度に介入せず、子どもが自らの意志で行動するよう、生活リズムを整えられるように寄り添う。
- 4 大人の干渉は子どもの才能を損なうことになるため、子どもがやりたいことを自らできるように、ひたすら見守る。

問八 「リズム(くり返し)」(——線部G)が生み出す過程を、次の【図】のように整理しました。【図】のⅠに入る内容の組み合わせとして最も適当なものを、後の中から一つ選び、番号で答えなさい。



- 1
 - Ⅰ 自分の意志での行動
 - Ⅱ 流れの習慣化
 - Ⅲ 心のくつろぎ
- 2
 - Ⅰ 自分の意志での行動
 - Ⅱ 心のくつろぎ
 - Ⅲ 流れの習慣化
- 3
 - Ⅰ 流れの習慣化
 - Ⅱ 心のくつろぎ
 - Ⅲ 自分の意志での行動
- 4
 - Ⅰ 心のくつろぎ
 - Ⅱ 自分の意志での行動
 - Ⅲ 流れの習慣化

問九 【文章Ⅰ】と【文章Ⅱ】の関係性について説明したものとして最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 【文章Ⅰ】には「子どもの手を無理やり引っ張って」とあり、【文章Ⅱ】には「子どもたちをしぼりつける」とあることから、子どもを管理したがる大人を読者と想定しているという共通点がある。
- 2 【文章Ⅰ】の「枠組み」と【文章Ⅱ】の「枠」は、同じ意味合いで用いられているが、前者が大人と子ども間で取り交わされるものに対し、後者は子どもの中でくり返されるものという違いがある。
- 3 【文章Ⅰ】は「家事に忙しいママ」とあり、子育てを母親の仕事であると考えているのに対して、【文章Ⅱ】は「お手本となる大人に導かれ」とあり、父親と母親の仕事であると考えている。
- 4 【文章Ⅰ】では、「満足するまでやらせる」ことが、子ども心の安定につながると考えているのに対して、【文章Ⅱ】では、「子どもの意志」が、子どもの心のくつろぎをもたらすと考えている。

問十 ～～～線部a～dのカタカナに相当する漢字を楷書で書きなさい。

三

次の文章は、志津谷元子『いのちのつぼみ』の一節です。
中学生の「わたし」は、事故で大切なところを亡くし、生きる
気力を失っていました。本文は、風邪をひいた「わたし」
が、命の恩人である病院を訪れた場面です。これを読んで、
後の設問に答えなさい。

「わたし、肺炎で命が危なかった一歳のときに、こちらのお医者
さんに助けてもらったんです」

「あら、そうなの。一歳のとき？ きっと、父が診察したのね。
亡くなって、もう十年たつわ」

5 松原先生はちよつと上を向いたあと、胸と背中に、ていねいに
聴診器を当てた。

「のどは痛い？」

「はい。咳が、なかなか治らなくて」

10 先生は、アイスキャンディーの棒のようなものを口の中に入
れ、のどの奥を見た。

「身長と体重は分かる？」

「身長は百五十五センチ。体重は、分かりません」

「じゃあ、量りましょう」

15 体重計に乗ると、先生がのぞきこんで針の位置を確かめた。緑
色の塗装がはがれかけた年季の入った体重計だ。きつとお父さん
の代から使っているものなのだろう。

「三十八キロ。うーん。最近、体重に変化はあった？」

「減ったと思います」

「ダイエットしているとか？」

20 わたしは首を横に振った。

「体重は、健康状態を知る上で、とても大事なのよ。何か特別な
できごとがあったのかしら」

わたしは先生から視線をそらし、

^A「いいえ」と答えた。

25 胸のレントゲン写真を撮り、再び診察室に招きいれられた。

看護師さんがレントゲン写真を持ってきた。わたしの胸部の写
真が目の前に映しだされる。肺に問題はないということだった。

「一枚のレントゲン写真は、いろいろなことを教えてくれるのよ」

松原先生は写真を見ながら、

30 「ここに、あなたが一歳のときにかかったという肺炎の跡が残っ
ている」
と指さした。

「あなた、わね。肺が、必死に酸素を取りいれようとし
たのよ。ものすごく苦しかったと思う。ここを見て。胸膜と横隔

35 膜が癒着している」

「ゆちゃく？」

「くつついているのよ。一歳のあなた、よくがんばったわね」

40 松原先生は慈しむようなまなざしをレントゲン写真に向けた。
「今は、体重が減っていることが気になるわ。食事と睡眠は、
ちゃんと取っている？」

「あまり」

「ちゃんと取らないと、だめよ。咳も治りにくくなるし、ほかの病
気にもなってしまうわよ。せつかく助かった命を大切にしなさい」

^B松原先生は、厳しい声で言った。

45 「はい」

なぜか涙が出てきた。

目の前から、何か重たいものが取りはらわれたような気持ち
だった。

^I松原先生は、机のすみに置いてあった写真立てをわたしに手渡

50 した。

「これが父。本当はあなた、父に会いたかったんでしょ？」

診察室で撮ったものだろう。白衣を着た男性の横顔は、緊張感
と優しさが入りまじったような表情で、わたしがぼんやりと想像
していたおじいさんとは違っていた。

55 「すてきな人ですね」

「そうでしょう？ わたしは父の横顔が好きだったの」

松原先生は、なごやかな表情を浮かべた。

診察室を出ようとすると、

「調子が悪かったら、またいつでもいらっしゃい」

60 松原先生は、真剣なまなざしで言った。

寒風の中、ゆっくりと道を踏みしめるように、家に向かって歩
いた。一步一步が、松原医院に行く前と違っているような気がした。
帰宅すると、母が心配そうな顔で待っていた。

65 「寒いのに、どこに行っていたの？」

「ちよつと駅の向こうまで」

自分の部屋に入ると、松原先生の言葉がよみがえった。

「あなた、わね。ものすごく苦しかったと思う。よくが
んばったわね」

70 一歳の赤ん坊だったわたしは、生きようとして必死で呼吸をし
ていた。その跡がレントゲン写真に残っている。一歳のわたし
は、生きたかったのだ。

何一つ記憶のない時代を、松原先生は一枚のレントゲン写真か
ら解き明かした。

75 一歳のわたしは、死ぬのではなく、生きることを選んだのだ。

三の設問

問一 ~~~~~線部 a・b の本文中における意味として最も適当なものを、次の各群の中から一つずつ選び、それぞれ番号で答えなさい。

- a 年季の入った
- 1 歴史を感じる
 - 2 貴重になった
 - 3 長年愛用された
 - 4 性能を更新した
- b なごやかな
- 1 穏やかな
 - 2 のんきな
 - 3 悲しげな
 - 4 懐古的な

問二 「ていねいに」(——線部 A) はどの文節に係りますか。一文節で書き抜きなさい。

問三 「いいえ」と答えた」(——線部 A) とありますが、このときの「わたし」の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 優秀な医師かもしれないが、個人的な事情にまですけずけとふみ込んでくる態度に、嫌悪感を抱いている。
- 2 医師の質問が、風邪とは無関係な話題に変わったことから、一刻も早く質問を切り上げたいと思っている。
- 3 悲しみに暮れて自暴自棄になっているため、医師から次々と投げかけられる質問にも、淡々と答えている。
- 4 医師からの質問を適度にかわすなか、思い出したくない出来事に関わる質問に、とっさに嘘をついている。

問四 本文中の [] (二カ所) に入る適当なことばを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 風邪は万病のもとだった
- 2 三つ子の魂百までだった
- 3 一寸先は闇だった
- 4 九死に一生を得た

問五 「松原先生は、厳しい声で言った」(——線部 B) とありますが、このときの「松原先生」の心情の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 かつて必死に生きようとしていた生命を大切に思いつつ、助かった今の命を粗末にしないでほしいと強く願っている。
- 2 食事も睡眠も十分に取ろうとせず、命を軽視しているように見える患者の態度を改めなければならぬと考えている。
- 3 体重がそのまま減り続ければ、再度肺炎になってしまう危険性もあることを医師として厳正に伝えたいと思っている。
- 4 あえて厳しい口調を用いることによって、命は大切にすべきであると印象づけ、その重みを納得させようとしている。

問六 「松原医院に行く前と違っていろいろな気がした」(——線部 C) とありますが、本文全体をふまえた場合、それはどういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 かつて一歳の自分が難病を克服して生き延びることができたという過去を受け止め、中学生になった自分であれば、どのような困難も恐れることはない、希望をもって生きようと思っているということ。
- 2 病院に行く前は、悩みを誰にも打ち明けることができずに、辛い気持ちをひたすら我慢していたが、病院で自分の悩みを共有できる人と知り合うことができ、家に向かう道では、心弾んでいるということ。
- 3 病院を訪れる前は、前向きに生きようと思えなかったが、病院で必死に生きようとしていた自分の過去を知ること、病院からの帰り道、今、自分は生きているという実感を取り戻しつつあるということ。
- 4 病院で医師に出会うまでは、生きる意味を見いだせなかったが、医師から命を大切にしないと厳しく注意されて、医師のためにも、今後は真剣に生きていかなければならないと自覚しているということ。

設問は、裏面に続きます。

問七 本文の表現に関する説明として適当でないものを、次の中から二つ選び、それぞれ番号で答えなさい。

- 1 9行目の「アイスキャンデイーの棒のようなもの」は、口に入れられた医療器具が「わたし」にとって見慣れないことを表している。
- 2 16行目の「使っているものなのだろう」における推量表現は、出来事の説明とは異なる、「わたし」の解釈であることを示している。
- 3 27行目では「目の前に映しだされる」と現在形が用いられ、出来事が作者の目の前で起こっていることが、ありありと伝わってくる。
- 4 36行目の「ゆちゃく？」は、中学生である「わたし」には「癒着」の意味が理解できなかったことを、分かりやすく示している。
- 5 52行目の「白衣を着た男性」は、診察を受けた医師の父親を指し、「わたし」には想像以上の美しい男性だったことを表している。
- 6 66行目の「ちょっと」は、意味に係る先が省略され、控えめな表現だが「わたし」にとっては大きな意味を持つことを暗示している。

問八 次に示すのは、「松原先生は、机のすみに置いてあった写真立てをわたしに手渡した」(——線部イ)についてのグループの話し合いの様子です。本文の内容をふまえて、ⅠⅢに入る最も適当なものを、後の各群の中から一つずつ選び、それぞれ番号で答えなさい。

Aさん —— 松原先生が「写真立て」を「わたし」に手渡したのは、私には、すごく唐突な行動に思えました。

Bさん —— それでは、その行動に至ったきっかけとなる表現を確認してみましよう。

Cさん —— きっかけは、おそらくⅠですね。

Aさん —— なるほど。松原先生は「写真立て」を手渡すことで、私の気持ちに寄り添おうとしたわけですね。では、「写真立て」を渡すことが、どうして私の気持ちに寄り添うことになるのでしょうか。

Bさん —— はっきりとは書かれていないけれど、「わたし」と松原先生の共通点は…。

Cさん —— 「わたし」も松原先生も、Ⅱという点だと思います。

Aさん —— 確かに、56行目に「わたしは父の横顔が好きだったの」と、間接的に示されていますね。

Cさん —— そう考えれば、「写真立て」と「レントゲン写真」にも、共通点がありそうですね。

Aさん —— 「写真立て」も「レントゲン写真」も、二人にとってのⅢの象徴なんですね。松原先生は、「わたし」との共通点をふまえ、「わたし」の気持ちに寄り添おうと、「写真立て」を手渡したのではないかと理解できました。

- Ⅰ
- 1 41行目の「あまり」
 - 2 44行目の「松原先生は、厳しい声で言った。」
 - 3 46行目の「なぜか涙が出てきた。」
 - 4 47～48行目の「目の前から、何か重たいものが取りはらわれたような気持ちだった。」

- Ⅱ
- 1 大切な人を亡くしている
 - 2 同じ男性を慕っている
 - 3 同じ場所に存在している
 - 4 深い悲しみに暮れている

- Ⅲ
- 1 現実逃避
 - 2 生きた証拠
 - 3 具体的な像
 - 4 過去の記憶

【四】

次の【文章Ⅰ】は、百人一首の和歌とその解説文です。

【文章Ⅱ】は、【文章Ⅰ】の解説文にある吉野伝説を素材とした、能「吉野天人」の一節で、月下の夜に人々に舞を披露しようとする美しい天女が現れた場面です。これらを読んで、後の設問に答えなさい。

【文章Ⅰ】

天つ風 雲のかよひ路 吹きとぢよ
乙女の姿 しばしとどめむ

(僧正遍照)

注1 『古今集』に「五節の舞姫を見て詠める」とある。五節の舞姫たちを、天上から降りてきた天女に見立てて詠んでいる。

注2 五節の舞は、毎年十一月の新嘗祭に、宮中で行われた少女たちの舞のこと。公卿や国司の家の未婚の娘が四・五人選ばれて舞姫となった。それぞれの家々では競って華美をきわめるので、その姿はたいへん美しいものであった。

注3 また、五節の舞には、天武天皇が吉野へ行幸した際、天女が天上から降りてきて舞ったという伝説もあり、当時はそれが五節の舞の起源とされていた。この歌もその伝説をふまえて詠まれているよう。

(鈴木日出男・山口慎一・依田泰 共著)

『原色小倉百人一首』による)

- 注1 古今集……古今和歌集。九一三年頃に成立。
- 注2 新嘗祭……天皇が行う宮中儀式の一つ。
- 注3 宮中……天皇が住む皇居の中。
- 注4 公卿・国司……高い身分の人々を指す。
- 注5 吉野……現在の奈良県南部の吉野山。桜の名所。
- 注6 行幸……天皇のお出かけ。

【文章Ⅱ】

(人々が言うには) 「不思議や。虚空に音楽聞え、異香薫じて、花降り。」これ治まれる御代とかや。

(言い終わらないうちに)

言ひもあへねば、雲の上。言ひもあへねば、雲の上。琵琶、

琴、和琴、笙、箏、篳篥、鉦鼓、羯鼓や、糸竹の声澄み渡る春風の、

天つ少女の羽袖を返し、花に戯れ、舞ふとかや。

(舞うとかいうことだ)

少女は幾度君が代を。少女は幾度君が代を。撫でし巖も尽させぬや。

春の花の梢に、舞ひ遊び、飛びあがり、飛びくだる。げにも上なき君の恵み。治まる国の天つ風雲の通路吹き閉づるや、少女の姿留まる春の霞もたなびく三吉野の、吉野の山桜、うつろふと思われたが)

と見えしが、また咲く花の雲に乗り、また咲く花の雲に乗りて、行方も知らずぞなりにける。

注1 和琴・笙・箏・篳篥・鉦鼓・羯鼓……すべて楽器名。

注2 糸竹の声……管弦楽器が奏でる音。

注3 少女……天女。

注4 羽袖を返し……羽衣の袖をひるがえし。

注5 梢……木の枝や幹の先の部分。

注6 三吉野……吉野山のこと。「三」は美しく飾る言葉。

四の設問

問一 「文章I」の和歌に関して、次の(i)・(ii)の問いに答えなさい。

(i) 和歌の表現についての説明として**適当でないもの**を、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 「天つ風」は、作者が「吹きとちよ」と祈る対象である。
- 2 「雲のかよひ路」は、天女が天上世界に帰る道である。
- 3 上の句の終わりに、意味の切れ目がある和歌である。
- 4 「乙女」は、実際には眼前で舞う天女を意味している。

(ii) 和歌の解釈として最も**適当なもの**を、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 天上界に吹く風が、雲のすき間の細い道を閉ざしてしまえば、天女の姿をしばらく見届けることができよう。
- 2 極楽に吹く風よ、天女が通って帰る雲の道を吹き消さないでほしい。天女がこの世界に留まってしまいうから。
- 3 空を吹く風よ、雲を通して天女が天に帰る道を吹いてさへぎっておくれ。天女の姿をしばらく留めたいのだ。
- 4 天の心地よい風を一人で楽しみたいから、雲の道を吹き閉ざしてほしい。天女はしばらく下界に留め置こう。

問二 「言ひもあへねば」(——線部)を現代仮名遣いに改めて、すべてひらがなで書きなさい。

問三 「異香」(——線部A)の「異」と同じ意味を含む熟語として最も**適当なもの**を、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 異議
- 2 異才
- 3 異端
- 4 怪異

問四 「治まれる御代とかや」(——線部B)の解釈として最も**適当なもの**を、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 天下泰平の御代であるから、こうした吉兆があらわれるのであろう。
- 2 天皇が手中におさめた御代であるから、奇怪なことが起こるだろう。
- 3 腐敗した御代であるから、不吉な事件が次々と起こるかもしれない。
- 4 悪行を改めた御代であるから、人々はきっと幸せになるに違いない。

問五 「撫でし巖も尽きせぬや」(——線部C)は、「君が代は天の羽衣まれに来て撫づとも尽きぬ巖ならなむ」(天人がたまに地上に降りてきて、その軽い羽衣で大岩を撫でるとしても、大岩は無くなることはないように、君の寿命も、長く久しくあつてほしい)をふまえた表現です。そのことをふまえて、——線部Cの意味として最も**適当なもの**を、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 たまに現れる天人が羽衣で撫でも、大岩はすり減って無くならないように、あなたの御代も、終わることなく、続いてほしい。
- 2 天人はたまにしか大岩のところに訪れることはありませんが、決して大岩のことを忘れることなく、今後もずっと撫で続けよう。
- 3 天人の羽衣は非常に軽いことから、そのような羽衣で幾度となく撫でられたところで、大岩は永遠に無くなりはないでしょう。
- 4 天人が羽衣で撫でるうちに、やがて大岩は尽きてしまうように、あなたの御代も、人間である以上、いつかは終わりを迎えます。

問六 「げにも上なき」(——線部D)の意味として最も**適当なもの**を、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 困った君がない
- 2 似ても似つかない
- 3 本当にこの上ない
- 4 いつかは失われる

設問は、裏面に続きます。

問七 「行方も知らずぞなりにける」(——線部E)の主語として最も適当なものを、次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 少女 2 君 3 山桜 4 花の雲

問八 【文章Ⅱ】には、【文章Ⅰ】の和歌をふまえた表現が見られますが、まったく同じというわけではありません。その違いについての説明として適当なものを、次の中から二つ選び、番号で答えなさい。

- 1 【文章Ⅰ】が、身分の高い「乙女」と表記されているのに対して、【文章Ⅱ】は、身分の低い「少女」と表記されている。
- 2 【文章Ⅰ】では、「雲のかよひ路」はまだ閉じていないのに対して、【文章Ⅱ】では、閉じているものとして理解できる。
- 3 【文章Ⅰ】の和歌は、発音しやすさが重視されているのに対して、能である【文章Ⅱ】は、演じやすさが重視されている。
- 4 「吹きとちよ」と強い気持ちが表れている【文章Ⅰ】に対して、【文章Ⅱ】では「吹き閉づるや」とためらいが見られる。
- 5 【文章Ⅰ】は、「乙女」は人間界で暮らすようになったのに対して、【文章Ⅱ】の「少女」は、天上界に帰ってしまった。
- 6 【文章Ⅰ】では、「天つ風」には文字以外の意味は含まれていないが、【文章Ⅱ】では、政治的な意味も込められている。

問題は、このページで終わりです。

↓ここにシールを貼ってください↓



は

受験番号			

2025年度 須磨学園夙川高等学校 入学試験解答用紙 国語

※	※	※	※	※	※
問十	問九	問七	問五	問三	問一
c					
a					
d		※	※	※	※
b		問八	問六	問四	問二
※					

（※の欄には、何も記入してはいけません）

二

※	※	※	※	※	※
問七	問六	問五	問四	問三	問二
					15
					20
※					

（※の欄には、何も記入してはいけません）

一



※	※	※	※	※	※
問八	問七	問五	問三	問二	問一
					(i)
		※	※		(ii)
		問六	問四		

（※の欄には、何も記入してはいけません）

四

※	※	※	※	※	※
問八	問七	問六	問四	問二	問一
Ⅲ					a
Ⅰ					
					b
			※	※	
			問五	問三	

（※の欄には、何も記入してはいけません）

三



2025SYUKS0110

※

※

※
